

# 11月・12月の管理ポイント

平成22年10月25日



株式会社 トモグリーンケミカル

今年は猛暑の影響もあってか、10月上旬まで暑い日が続いていました。秋の短いシーズンになりそうです。夏場のダメージの回復もままならない冬になってしまいそうです。糖類などの栄養剤で貯蔵養分の確保を少しでもおこなっていきましょう。

ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第108号



## グリーンメカ

貯蔵糖類を確保して来春の萌芽期を乗り切る...

11月は、生育期のため糖類消費が激しい季節です。

曇天が続く日は、光合成が不十分で、折角の施肥が完全にエネルギーにかえられません。

グリーンメカを処理して糖類を補給し、12月の休眠期に備えましょう。

貯蔵糖類が十分にあれば、耐寒性・耐凍性が増強され、来春の萌芽期は均一に芽出しします。

使用量：5～10ml/m<sup>2</sup> 1ℓ/m<sup>2</sup>以上散布



## プライマーセレクト

強風によるグリーン表面の乾燥に...

強風による乾燥の厳しい11月は、油断するとすぐにグリーン表面が乾燥しすぎてしまいます。

プライマーセレクトを処理することによって、均一な水分分布を目指し、乾燥害からグリーンを守りましょう。

使用量：1～2ml/m<sup>2</sup> 200ml～1L/m<sup>2</sup>散布 散布回数 1ヶ月～1ヶ月半に1回



## コ・エンザ

芝生の色出しに...

補酵素の働きで植物内の活性を高め、晩秋にかけて色落ちする時期を遅らせます。

また、古くなった下葉が焼けたようになり、その後のサッチング処理で、グリーン表層のサッチ(有機残渣)が取れやすくなります。

使用量：0.5～1.0g/m<sup>2</sup> 0.5～1.0ℓ/m<sup>2</sup>散布



## カラーメイトF-20

新商品 !!

今年よりご提供させていただく**F-20**は、複数のゴルフ場コースにも御協力頂き、長年かけて試作を重ね完成させた自信作です。従来の着色剤に比べ、色調は落ち着きのある、季節にあった自然な(ダークグリーン)風合いに仕上がります。物理性(固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc)や安全性にも優れ、お求めやすい価格設定なので、フェアウェイなどの広範囲にご使用いただけます。

使用量：50～100倍 100～200ml/m<sup>2</sup>散布



## リーフシールド

芝生の耐乾性・耐寒性を高めるには...

米国アクアトロールス社品

リーフシールド処理により葉面はコーティングされ、蒸散が抑えられます。

葉面温度が下がるのを軽減し、また乾燥からも守ります。

着色剤との組み合わせにより、葉面温度が上昇し、霜が早く溶けます。

使用量：200倍 150～200ml/m<sup>2</sup>散布

# 根は必要な養分を どのように吸収するか

植物の根は、土壌溶液に溶けている栄養塩類から選択的に必要とするものを吸収するといわれています。

今回は、トマトとイネの水耕栽培から、水耕液の養分濃度の変化を測定した結果を紹介します。

## 水耕栽培による根からの養分吸収量

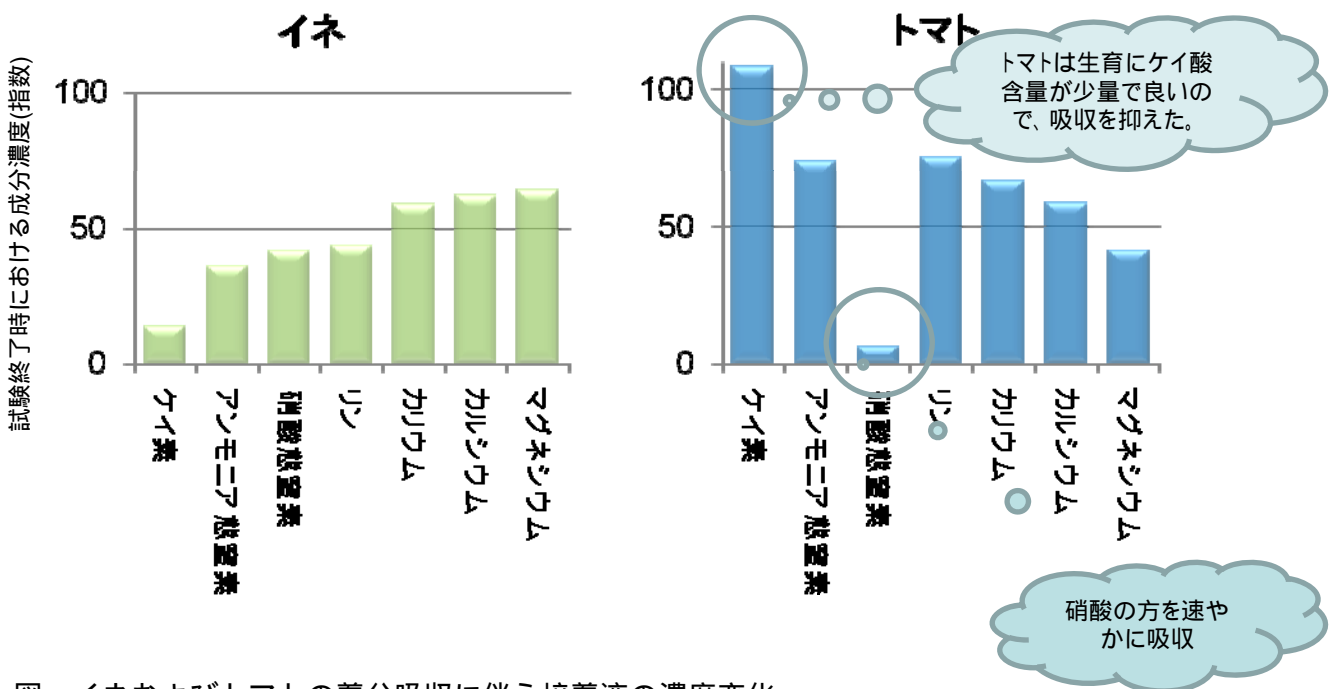


図 イネおよびトマトの養分吸収に伴う培養液の濃度変化  
試験開始時の培養液の成分濃度をそれぞれ100とした場合の指数で表示

『「根」物語』 高橋英一著 より抜粋

ほぼ同じ大きさのイネあるいはトマトの幼植物を植え、72時間後の水耕液の濃度変化をみたものです。養分は、種類によって濃度の減少割合(つまり吸収速度)は異なっており、イネではケイ酸の濃度の減少が最も著しく、マグネシウムが最も小さい(吸収量が少ない)が、トマトではほぼ逆の傾向になっている。これは、植物は必要とする養分ほど強く吸収すること、またこの選択吸収性は植物の種類によっても異なる(種 特異性)ことを示しています。